

Overview

亀井 克彦

千葉大学 真菌医学研究センター 病原真菌研究部門 真菌感染分野

輸入真菌症は、国内由来の真菌症とさまざまな点で異なっており、一般の真菌症に対する場合と、意識を切り替える必要がある。わが国で発症が確認されている輸入真菌症は、現在のところコクシジオイデス症、ヒストプラズマ症、パラコクシジオイデス症、マルネツフェイ型ペニシリウム症の4疾患に限られている。特に、コクシジオイデス症とヒストプラズマ症の二疾患において、近年、国内での急激な症例数の増加が見られている（それぞれ計38例、41例）。特に前者では、流行地であるアリゾナでも症例数の増加が問題となっており、わが国における同地での感染例も目立って増えてきている。今後わが国での患者数の持続的な増加が懸念される。また、コクシジオイデス症は感染症法による4類に指定されていることも忘れてはならない。一方、プラストミセス症はこれまで発生の報告がないが、流行地（北米五大湖周辺）での患者数や日本との往来を考えると、今後患者の発生を見る可能性が高い。また、これら以外にも多くの危険な真菌症が風土病として限局した地域に発生している事実も無視できない。このoverviewでは、わが国における輸入真菌症を疫学を中心に概説し、それぞれの疾患・問題提起への序奏としたい。

Overview

KATSUHIKO KAMEI

Dept of Pathogenic Fungi, Res Ctr for Pathogenic Fungi and Microbial Toxicoses,
Chiba University